浄泉寺報
第４号
２０１６年
春彼岸

2016 年 修正会

彼岸と此岸

浄泉寺住職　望月廣三

私たちがこの世に生まれてこの方、それこそ死ぬまで生きつづけねばならない場所は、この娑婆世界「此岸」をおいてほかにない、ということです。「そんなことは言われんでも分かっている」とお叱りを受けるかもしれないが、いや、存外、分かっている人は少ないのです。

なぜなら、心身共に休まるという安楽世界たる「彼岸」の実現は、苦に満ちているこの世、「此岸」をしっかりと受け止めることからはじまるからです。誰しも「幸せな人生を送りたい」、そう願わない人は一人もいないでしょう。だがそこには、深い落し穴が大きな口を開けているのです。

ドイツ人の詩人、ブッセに「山のあなたの空遠く　「幸」住むと人のいふ」という、上田敏訳で一躍有名になった詩がありますね。この詩を思い浮かべるたびに私は、なるほどブッセはうまいこと言っている、と感心させられるのです。雲一つない青空の彼方にある山並みを眺めていると、「ああ、いいなぁ・・・」と思わず知らず溜息が出ます。不安や苦に満ちた現実から逃避したいという気持ちが、山の彼方を見て、そこに世俗を離れた安楽世界を夢見させるのでしょう。人間存在のはかなさとおろかさを詠んだ詩であると思われます。

現実の苦しみを受け止められない理想郷は、やはり理想でしかありません。理想は現実のものにしなければなりません。そのためにはまず、苦に満ちた現実から逃げてはなりません。その現実こそが私自身なのだ、と受け止めることが最も大切です。そこからでしか、新しい人生への歩み出しも発見もない、と思うのです。

- 若坊守のひとりごと -

日々悩むことは当たり前ですが、ストレスなく悩むということが育児には必要だと子どもに教えてもらっています。最近は昼寝がなければ七時就寝、昼寝すれば九時就寝です。他のお母さんに七時就寝だと言うと、夜に自分の時間が多く持てて良いねと羨ましがられますが、早く寝たら早く寝た日の過ごし方があるし、遅く寝たら遅く寝た日の過ごし方があるので、私自身は良し悪しは特に持っていません。でも自分の想いや都合を優先させると、ストレスになります。「楽しく子育て」というのは「思い通りにしたい」という自分勝手な要求から手を離すことなのでしょう。思い通りになるはずないのが、子どもです。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏（仏壇）に座る ④　～仏花について～

このコーナーでは、皆さんのご家庭にあるお内仏（仏壇）についてのアレコレを連載します。

仏花は前卓の上、向かって左側に置きます。

今回はお花を備えることについてみていきます。花瓶を左の写真の位置に置き、四季折々の木に咲く花、草花などをとりまぜて挿します。お仏花には常に生花を用います。なお、中陰中には色花は用いません。

では、なぜ生花を用いるのかについて少し考えてみたいと思います。切った生花は、お水を差さなければ枯れてしまいます。もっといえば、水を差していても、いずれ花は必ず枯れてしまいます。このことは、私たちが誰一人として例外なく、いずれ必ず死を迎えるこの身を生きているということを教えてくださる仏さまのはたらきを表しているともいえます。不平等なことだらけの世の中にあって、「死」は一切の人が平等に背負う真実です。自分の思いどおりにならない、ままならないこの人生の象徴といってもいいかもしれません。

ともすれば、私たちはお花を仏さまに「供える」と思いがちですが、お花は仏さまの方ではなく、私に向けて備えるのです。そして、「供える」ではなく「備える」という字を使うことにも注目してみてください。備品の「備」には、「不足なくすでに備わっているもの」という意味があります。仏さまの世界、「お浄土」にすでに備わっているはたらきを、人間の目に見える形で、私が代わりに「備える」のです。そして、お花を備えたご本尊の前に身を据えて手を合わせ、「死」を背負いながらも今ここに在る、誰にも代わることも代わってもらうこともできない「私」を確かめる営みが、お内仏の前に座るということなのです。　（浄泉寺若院・釋亜世）

お寺からのお知らせ

●春の彼岸会●

三月二十一日(月・祝)　午後三時～

於：浄泉寺本堂　お勤め・住職法話

●同朋会●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職の法話をお聞きいただいた後、皆さんでお茶を飲みながらお話します。どなたでもお気軽にご参加いただけます。詳細な日程はお寺までお問い合わせください。

平成 28 年(2016 年)年忌表

一周忌	平成 27 年(2015 年)亡
三回忌	平成 26 年(2014 年)亡
七回忌	平成 22 年(2010 年)亡
十三回忌	平成 16 年(2004 年)亡
十七回忌	平成 12 年(2000 年)亡
二十五回忌	平成 4 年(1992 年)亡
三十三回忌	昭和 59 年(1984 年)亡
五十回忌	昭和 42 年(1967 年)亡

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３　電話 0799-22-4798